



今回は収集した資料のチェックの第三回目である。世間で話題になっている事柄について、マスコミの報道は、しばしばバランスを欠いている場合がある。この中で少数派の見解を留意し、バランスのある情報収集の方法について、紹介しよう。

第二十六話 資料のチェック③

少数意見に留意したバランスある情報収集に努める

今回も、記述されていない事実の探し方について、紹介したい。今回は、世の中で話題になっている事柄でも、マスメディアにあまり取り上げられない部分が多々あることを紹介しよう。この見逃されがちな部分の事実をどのように見つけるかについて、説明する。

マスメディアの事実の取り上げ方には、偏りがあり濃淡がある。話題によって、バランスを欠いた偏りが大きな報道になっている場合が少なくない。実態の重要な部分について取り上げられない場合も少なくない。

バランスの取れた情報収集を心がけていれば、些細な事柄として切り捨てられた部分について、簡単に気がつくことが出来る。例えば、この夏に日本中の話題をさらったロンドンオリンピックでのメダル獲得数を例にとろう。

日本選手が獲得したメダル数は、金メダル 7 個、銀メダル 14 個、銅メダル 17 個と、合計で 38 個であった。この事実について、TV メディアの多くは、前々回のアテネ大会（2004 年）の 37 個を上回る史上最多であったと、大きく報道した。

しかし、この TV メディアの報道姿勢は、バランスを欠いたものといってよい。グーグルでニュース記事検索や、ヤフーのトピックス一覧の検索をすれば、史上最多のメダル獲得を称賛する記事とは別に、批判的な部分を強く示唆している記事も、数は少ないが簡単に見つけられる。

例えば、今回のメダル獲得数は、JOC（日本オリンピック委員会）が当初目標とした世界 5 位相当の金メダル数（15～18 個）には遠く及ばない。更に、前々回のア

テネ大会（2004年）の16個、前回の北京大会（2008年）の9個と、続けて金メダルの獲得数は下がってきていると、指摘する記事が見つかる。

また、日本の過去の記録と比較するのではなく、諸外国のメダル獲得数との比較に注目すれば、日本選手の活躍の見劣りする部分が見えてくる。メダル大国のアメリカや中国と比較するのではなく、日本に近い国と比較すれば、別の角度から日本の課題が見えてくる。

例えば、隣国の韓国との比較である。韓国は金メダル13個で世界5位、日本は7個で世界11位である。金メダルの獲得数で倍近い差をつけられている。このように大きく差をつけられた理由について、更に調べていけば、日本の政府やJOCのオリンピックの選手支援対策について、海外に大きく見劣りする部分や改善すべき部分が見えてくる。

この問題について、ネット上で一時話題を集めた長野五輪金メダリスト清水宏保「スポーツ後進国日本」（2010年2月23日付け、朝日新聞）の記事の最後部分について、紹介しておこう。

清水選手は、この記事の最後を、「五輪の時だけ盛り上がり、終わったら全く関心がないというのではあまりに悲しい。日本にスポーツ文化を確立させるため、国もJOCも努力を惜しまないでほしい」と、結んでいる。

日本を代表するテレビ局や大手新聞社による報道は、そのブランド力とこれまでに築いた信頼性ゆえに、簡単に信じてしまう人が多い。筆者も例外ではない。自分の専門分野や関心事以外は、そのまま受け入れてしまうことが多い。

ここで紹介したように、日本を代表するマスメディアの報道でも、読者や視聴者受けする内容に偏り勝ちであるという実態を意識しておく必要がある。また、マスメディアには、大手スポンサーや監督官庁への批判記事を出来れば穏便に済まそうとする傾向があることにも、注意しなければならない。

マスメディアの報道姿勢に関する問題点については、これまで数多く書かれてきているので、関心のある人はネット検索で調べてみるとよい。

さて、話題を集めている事柄について、マイナーな見解やあまり報じられない部分について、簡単に見つける方法について紹介することにしたい。

誰でも簡単にできる方法は、前述したように、関心のある話題に関するキーワードを用いて、ヤフーやグーグルで検索範囲を限定した記事検索を行い、マイナーな記事を探すことである。

たとえば、ヤフーのトピックス欄（<http://dailynews.yahoo.co.jp/fc/>）をみれば、国内、地域、経済、海外、エンターテイメント、スポーツ、サイエンス、コンピュータの8カテゴリーに分けて、それぞれのカテゴリー毎に、最近の話題項目を列挙し、新聞社やウェブのニュースサイトの記事へのリンク集を作成している。同一の話題について、沢山の記事の比較が簡単にできるので便利である。

この方法を更にもう少し工夫して、メディア間の比較を行い、そこでの論点の違

いに注目し、マイナーな見解に気配りすることである。例えば、新聞社の社説の比較である。新聞の社説は、新聞社の見解や主張を代表しているものといってよい。社会で注目されているニュースでも、社説の内容は大きく異なる場合が多く、色々な見解や主張があることがわかり、勉強になる。

社説に関しては、社説を比較するサイトを利用する方法や新聞協会の「紙面展望」欄を利用する方法がある。紙面展望では、週一回、世の中で話題になっているテーマを取り上げ、新聞各社の社説の見解を整理して、紹介している。興味のある社説が見つければ、その新聞社のウェブサイトについて、その社説の全文を調べることができる。

ニュース・メディアに関する重要な情報源は、日本語で読める海外のニュースサイトである。海外のニュース・メディアは、日本国内のニュース・メディアとは、かなり異なるスタンスで情報発信しており、日本人の気付かなかった視点を教えてくれる。

検索のキーワードを、{日本語で読める海外の新聞}として検索すれば、韓国、中国、アメリカ、EU諸国の新聞サイトが、簡単に見つかる。

最近話題になっている日韓問題や日中問題を調べるには、韓国や中国のニュースサイトでのサイト内検索をすれば、日本との異なる論点の記事を見つけることが出来る。その記事に共感できるかどうかは別にして。

最後に、立場の異なる情報源からの資料を、突き合わせて比較することを提案したい。例えば、対立する政党のオフィシャル・サイトの比較、裁判での検事側と弁護士側との論点の比較、異なる見解を提出している学会の提言内容の比較など。

例えば、最近話題になっている健康問題であれば、血中のコレステロール値の高低と健康について、日本脂質栄養学会と日本動脈硬化学会は、それぞれのガイドラインで、異なる見解を提出しており、興味深い。

この対立する学会の見解は、世間の注目を集めており、医学以外の専門家も、ブログで、この見解の相違について独自の主張を提出している。医療という専門分野であっても、気付かなかった論点をいろいろ教えてもらえる。

☆☆

WebCR 編集部からのお知らせ

本誌に連載／掲載されている記事に関するご質問、ご意見をお待ちしております。近い将来に予定されているプロジェクトに先立って不安や問題点の確認をなさりたい方、現在進行中のシステムのプロジェクトマネジメントにおけるトラブル関連など、何でも結構ですので、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

cr-info@jmsi.co.jp

☆☆